

議員報酬の視点と論点

08/2

～ポピュリズムに議会の活性化は期待できない～

☆議会の結果と議員活動が見えない・・・！

米子市の財政改革を巡って、巷の声が聞えて来る。議会情報は様々、議会のテレビ中継、市議会だよりと、議員個々の市政報告活動などがある。

議会の活性化は、自ら選んだ議員の監視と再評価に尽きる。一方、施策の一つを捉えて財政赤字を見逃したという議会不信がある。行政施策は、時の政治経済背景が基にある。過去の施策を、今の状況で両断することは適当とは思わない。議員の足跡は、一朝一夕に結果が見えない。議員は、自らのポリシーと信念に基づいて、市民の立場で行政を監視し、政策議論することが使命である。

今、「協働のまちづくり」が語られている。これは、住民が行政の肩代わりをすることではなく、自らが選んだ議員と共に行動することだと思う。

☆議員報酬は、会議日数の対価か・・・！

「特別報酬審議会」の審議で、市長が提出した資料から、「議員は、年間 132 日の日数しか議会に来ていない。月額 50 万円は、高過ぎる」という審議委員からの意見があったと聞く。議員は、会議日数だけが活動ではない。

議員は、市長「召集」の「定例会、臨時会」に、分野別の施策に自らのポリシーを組み立て全力で挑む（取材、調査、研究、交渉）。一日開かれる会議の議題に、情報収集にかかる日数は、自己の経験から会議日数の倍以上を要する。

更に、本会議の各個質問（30 分の持ち時間）の準備に、調査を含めて最短でも一週間は係る。これらの日数は、市長の提出した資料の会議日数には反映されていない。行政は、「生き物」とも言われる。分野別施策を、日々変化していく中で継続的に追い求めるには「日当手当ての片手間議員」ではできない。

☆議員報酬と「税との対比」・・・！

報酬比較に、類似都市との比較がある。米子市の 12%削減のケースは、出雲市との比較とされている。その出雲市は、月額 44 万円の報酬で議員定数 34、定員削減はされていない。

米子市は、月額 44 万円の報酬で法定数 34 を 4 名削減し 30 としている。この比較から、米子市の議員報酬の市税に占める割合は、出雲市より年間 7,000 万円も少ない。これを、5%削減の 475,000 円で比較しても、税に占める割合は出雲市より 5,000 万円も少ない。

野坂市長は、「議員報酬の適正化」で何を求めていたのか、説明責任を果たしていない。議員報酬削減の結末は、その場合会議の「片手間議員」を増やす。更に議員は、経済的に豊かな者しかねない。議会が偏り「公平性」に欠く。

議員報酬の削減は、議会の活性化どころか、議会は今以上に形骸化する。市の財政健全化は、議員報酬削減より借地料の「過払い」が喫緊の課題だ。